エコアクション２１

2022年度　環境経営レポート

［ 対 象 期 間 ］

自　2022年　4月　1日
至　2023年　3月 31日

永 和 工 業　株 式 会 社

作成日　　2023年　6月 30日

― 目　次 ―

１．　組織の概要

（1）　事業所名 及び 代表者名
（2）　所在地
（3）　事業の概要
（4）　事業の規模
（5）　環境管理責任者 及び 担当者連絡先

２．　対象範囲（ 認証・登録範囲 ）

（1）　全事業所、組織の全事業活動を 対象とする
（2）　役割・責任・権限

３．　環境経営方針

４．　環境経営目標

５．　環境経営計画

６．　環境経営目標の実績

７．　環境経営目標 及び 環境経営計画の実績・取組結果と
その評価（ 実績には二酸化炭素排出量を 含む ）並びに
次年度の環境経営目標 及び 環境経営計画

８．　環境関連法規等の遵守状況の確認 及び
評価の結果 並びに 違反・訴訟などの有無

９．　代表者による全体評価 と 見直しの結果

1.　組織の概要

（1）　事業所名 及び 代表者名

えいわ　こうぎょう
事業所名　　永和工業　株式会社

はらだ　もと　こ
代表者名　　代表取締役　原田　素子

（2）　所在地

きたきゅうしゅうし もじく まつばら　2 －3 －5
本　　社　　北九州市門司区松原 二丁目3番5号

小倉第一事業所　　北九州市小倉北区中島 二丁目1番1号
小倉第二事業所　　北九州市小倉南区朽網東 五丁目1番1号
黒崎 事業所　　北九州市八幡西区黒崎城石 1番1号

（3）　事業の概要

建 設 業
① 管工事業
② 機械器具設置工事業
③ 消防施設工事業

営業品目
＊ 各種プラントの配管工事
＊ 機械器具設置・改造工事 及び メンテナンス
＊ 各種ライニング工事
＊ 金属 及び 樹脂製品の製作加工
＊ 上記に付帯関連する工事の 設計施工

（4）　事業の規模

	2020年度	2021年度	2022年度
売 上 高	597,318 千円	484,066 千円	715,963 千円
従業員 数	30 人	30 人	30 人
本社事務所床面積	226 ㎡	226 ㎡	226 ㎡
本社工場建築面積	625 ㎡	625 ㎡	625 ㎡
本社敷地面積	3,014 ㎡	3,014 ㎡	3,014 ㎡

（5）　環境管理責任者 及び 担当者連絡先

			［ 連絡先 ］	［ FAX ］
環境管理責任者	総務 課長	湯本 浩司	093-371-1221	093-381-5699
（ 担当 連絡先 ）	総 務 課	湯本 浩司	093-371-1221	093-381-5699

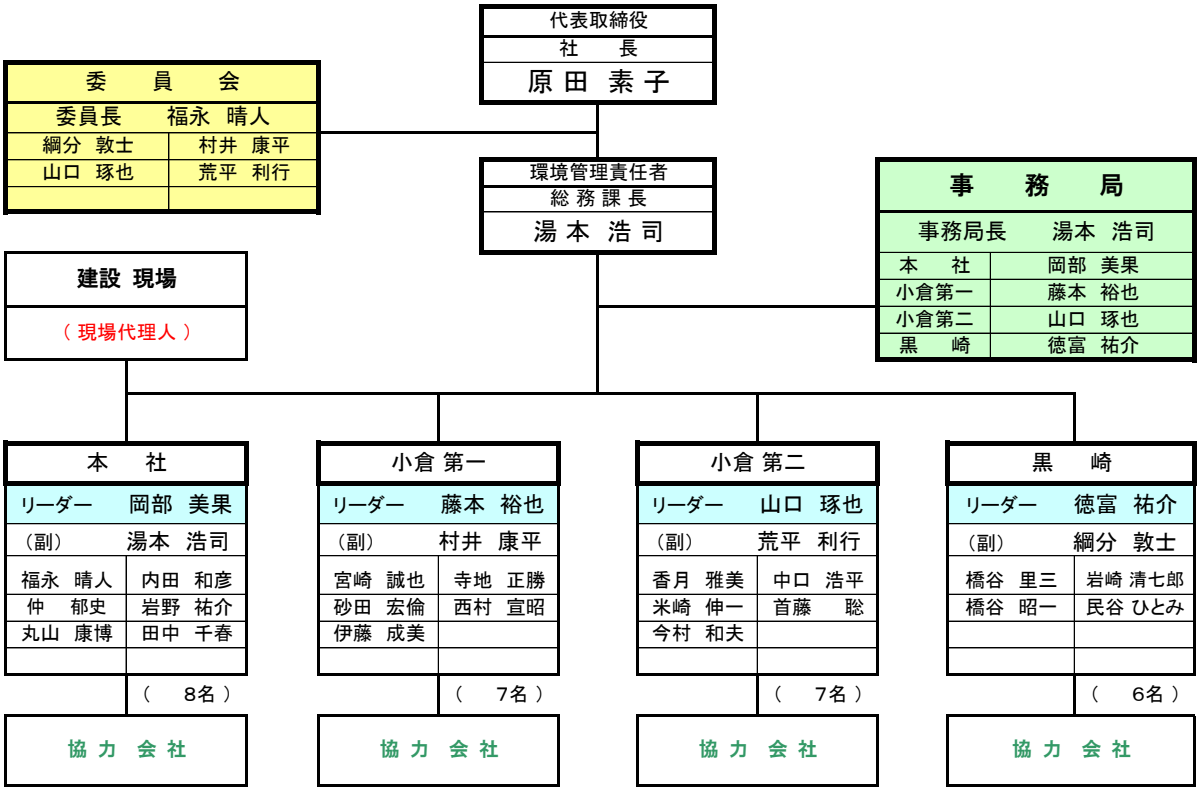
2.　対象範囲（認証･登録範囲）

2022年　4月　1日

（1）　全事業所、組織の全事業活動を 対象とする

永 和 工 業　株 式 会 社

エコアクション21　実施体制



（2）　役割・責任・権限

[　役 割 分 担 表　]

氏　名	役職（所属）	役割・責任・権限・使命
原田　素子	代表取締役	全社活動の統括、環境方針の設定、環境への取組みを実施するためのあらゆる準備と活動全般の評価や見直しを 行う。
湯本　浩司	総務　課長	活動全体の把握、環境経営システムを構築･運用し、その状況を社長に報告する。
（湯本 浩司）	**委　員　会**	半年に 1回 開催し、環境目標の達成状況 及び 活動計画の実施状況を 審議する。 必要によっては、随時開催する。
（湯本 浩司）	**事　務　局**	EA21文書 及び 記録類の作成 ・ 維持 ・ 管理 3ケ月に 1回 事業所リーダー会を 開催し、実施計画についての対策や効果等の達成状況や目標に対する取り組み実施状況などについて、審議する。
湯本　浩司	（本　社）	省資源活動 環境負荷の少ない物品を 優先的に購入する。
村井　康平	（小倉　第一）	産廃物の削減 資源ゴミの分別を 徹底し、廃棄物の減量に 努める。
山口　琢也	（小倉　第二）	省エネ活動 節水･節電に 努めると共に 設備･車両･機器等の環境商品化を 推進して行く。
徳富　祐介	（黒　崎）	温暖化防止 人的･金銭的支援を 含めた緑化活動推進により、地域貢献を 行う。エコドライブの推進
現場代理人	管轄 事業所	建設現場のエネルギー削減 ・ リサイクル率管理 ・ 環境景観管理

３．　環境経営方針

環 境 経 営 方 針

Ⅰ．　基 本 理 念

環境保全を事業活動の中での重要課題に位置づけ、各利害関係者とコミュニケーションを とりながら、環境に資するあらゆる改善を 継続的に図って行く。

Ⅱ．　行 動 指 針

1.　環境負荷の低減

（1）　省資源活動
① 環境負荷の少ない物品を 優先的に購入する。
② 再生紙の利用や両面印刷等を 推進し、用紙の削減や有効活用を 行う。

（2）　省エネ活動
① 節水や節電に 努める。
② 設備・車両・機器等についての環境商品化を 推進して行く。

（3）　廃棄物の削減
① 無駄な消費を 削減し、廃棄物の削減に 努める。
② 資源ゴミの分別を 徹底し、廃棄物の減量に 努める。

（4）　温暖化の防止
① エコドライブを 推進する。
② 原材料や副資材のグリーン化・グリーン購入に取組む等、緑化活動を 推進することによって地域貢献を 果たす。

2.　環境マネジメントシステムの構築と継続的改善

3.　環境教育の充実と環境の保護

4.　環境関連法規の遵守

5.　業務リスクを 回避し、経営効率の向上を 図る

（1）　不良品や手待ち・出戻りの撲滅
① 作業前の施工打合せを シッカリと行い、不良品の発生を 防止する。
② 出発前には、材料や道工具などの積荷を 確認し、手待ちや出戻りなど 無くす。

（2）　無事故無災害の達成
① 始業前には、必ず KYを 実施し、作業の安全を 保持する。
② 現場・作業場の安全パトロールを 実施し、不安全行動や不安全設備を 改善する。

6.　若手社員の採用強化と教育の推進

環境経営の継続的改善を 誓約します。

制定日　　2011年 12月 28日
改定日　　2021年 12月　2日

永 和 工 業　株 式 会 社
代表取締役
原 田　素 子

4.　環境経営目標

2022　4月　1日

2022年度 及び 中長期 環境経営目標

2021年度（基準年度）の実績を 踏まえ、各年度の目標を 設定しております。

環境目標			単位	2021年度 実績 （基準 年度）	2022年度 目標 （基準年度実績 対比率）	2023年度 目標 （基準年度実績 対比率）	2024年度 目標 （基準年度実績 対比率）	2025年度 目標 （基準年度実績 対比率）
1	二酸化炭素　排出量		kg－CO2	21,440 kg－CO2 （ 100.0％）	21,272 kg－CO2 （ 99.2％）	21,022 kg－CO2 （ 98.1％）	20,660 kg－CO2 （ 96.4％）	20,414 kg－CO2 （ 95.2％）
1－1	電　気　使用量		KWh	22,916 KWh （ 100.0％）	22,500 KWh （ 98.2％）	22,300 KWh （ 97.3％）	22,100 KWh （ 96.4％）	22,000 KWh （ 96.0％）
1－2	ガソリン　使用量		ℓ	7,606 ℓ （ 100.0％）	7,550 ℓ （ 99.3％）	7,500 ℓ （ 98.6％）	7,400 ℓ （ 97.3％）	7,350 ℓ （ 96.6％）
1－3	軽　油　使用量		ℓ	1,468 ℓ （ 100.0％）	1,450 ℓ （ 98.8％）	1,400 ℓ （ 95.4％）	1,350 ℓ （ 92.0％）	1,300 ℓ （ 88.6％）
1－4	ＬＰＧ　使用量		kg	2.20 kg （ 100.0％）	5.00 kg （ 227.3％）	3.50 kg （ 159.1％）	3.00 kg （ 136.4％）	2.80 kg （ 127.3％）
2－1	廃棄物　排出量		t	69.81 t （ 100.0％）	68.00 t （ 97.4％）	66.00 t （ 94.5％）	65.00 t （ 93.1％）	64.00 t （ 91.7％）
2－2	建設副資材の リサイクル率		リサイクル率 （循環資源 t）	'25.5％ （ 17.83 t）	27.1％ （ 18.40 t）	30.3％ （ 20.00 t）	33.8％ （ 22.00 t）	35.9％ （ 23.00 t）
3	総排水量（給水量）		㎥	72.0 ㎥ （ 100.0％）	71.0 ㎥ （ 98.6％）	70.0 ㎥ （ 97.2％）	69.0 ㎥ （ 95.8％）	68.0 ㎥ （ 94.4％）
4	グリーン購入の推進	事務用品	再生用品の活用品目 達成率	0 件 （ 0.0％）	1 件 （ 100.0％）	1 件 （ 100.0％）	1 件 （ 100.0％）	1 件 （ 100.0％）
		再エコ車対応 （全16台）	省エネ車／車両総数（％） 普及率	16台／16台 （ 100.0％）	17 台／17台 （ 100.0％）	17 台／17台 （ 100.0％）	17 台／17台 （ 100.0％）	17 台／17台 （ 100.0％）
5	会社周辺の清掃 （※ 100% 以上を 達成目標とする）		実施 回数 （達成率）	37 回／年 （ 100.0％）	38 回／年 （ 102.7％）	39 回／年 （ 105.4％）	40 回／年 （ 108.1％）	41 回／年 （ 110.8％）
6	無事故 無災害　達成 （※ 各所 100%を 達成目標とする）		事故災害　件数 （達成率）	0 件／年 （ 100.0％）	0 件／年 （ 100.0％）	0 件／年 （ 100.0％）	0 件／年 （ 100.0％）	0 件／年 （ 100.0％）
7	若手社員の採用 と 育成		若手採用　人数	—	1 人／年 （ 100.0％）	1 人／年 （ 100.0％）	1 人／年 （ 100.0％）	1 人／年 （ 100.0％）
			教育研修　回数	—	6 回／年 （ 100.0％）	6 回／年 （ 100.0％）	6 回／年 （ 100.0％）	6 回／年 （ 100.0％）

備　考　1：電気（1－1）・水（3）・周辺の清掃（5）は 本社のみ、LPG（1－4）は 本社と黒崎の合計で集計する。又、購入電力の二酸化炭素排出係数は、2020年度 ㈱ ウエスト電力の 0.00 kg－CO2/kwhを使用し、2021年度の目標 及び 実績を 計算している。

2：循環資源のリサイクル率は、年度毎の 循環資源／総排出量で 計算する。

3：化学物質の使用量は、極微量のため環境目標の策定は行っていない。

5.　環境経営計画

2022年 4月 1日

2022年度　環 境 経 営 計 画

2022年度　環境経営計画の項目

（1） 二酸化炭素　総排出量削減

	活動 項目	本　社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
		実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画
1	電気 使用量の削減	① エアコンの室温調節（ 夏28度、冬22度 ）	岡部	通 年	① エアコンの室温調節（ 夏28度、冬22度 ）	伊藤	通 年	① エアコンの室温調節（ 夏28度、冬22度 ）	山口	通 年	① エアコンの室温調節（ 夏28度、冬22度 ）	民谷	通 年
	（1） 事務所	② 退社時には、エアコンを 忘れずに切る。	岡部	通 年	② 退社時には、エアコンを 忘れずに切る。	伊藤	通 年	② 退社時には、エアコンを 忘れずに切る。	山口	通 年	② 退社時には、エアコンを 忘れずに切る。	民谷	通 年
		③ 昼休みの事務所は、原則 消灯とする。	岡部	通 年	③ 昼休みの事務所は、原則 消灯とする。	伊藤	通 年	③ 昼休みの事務所は、原則 消灯とする。	山口	通 年	③ 昼休みの事務所は、原則 消灯とする。	民谷	通 年
		④ 更衣室などの照明は、管理者が 再点検	湯本	通 年									
		する。											
		⑤ 効率的な業務に徹し、残業は 控える。	湯本	通 年									
	（2） 工場・加工場	① 未使用時の電動工具などは、元電源を	福永	通 年	① 未使用時の電動工具などは、元電源を	藤本	通 年	① 未使用時の電動工具などは、元電源を	山口	通 年	① 未使用時の電動工具などは、元電源を	徳富	通 年
		切る。			切る。			切る。			切る。		
		② 昼休みの加工場は、原則 消灯とする。	福永	通 年	② 昼休みの加工場は、原則 消灯とする。	藤本	通 年	② 昼休みの加工場は、原則 消灯とする。	山口	通 年	② 昼休みの加工場は、原則 消灯とする。	徳富	通 年
		③ ピーク電力を考え、機器などを使用する。	福永	通 年	③ 電動工具の定期整備を 確実に行う。	藤本	通 年	③ 電動工具の定期整備を 確実に行う。	山口	通 年	③ 電動工具の定期整備を 確実に行う。	徳富	通 年
2	ガソリン 使用量の削減	① 省エネ運転励行（ 急な発進・加速の禁止 ）	湯本	通 年	① 出戻りの防止（ 積荷の確認 ）	村井	通 年	① 出戻りの防止（ 積荷の確認 ）	山口	通 年	① 出戻りの防止（ 積荷の確認 ）	綱分	通 年
		② 規定の整備点検を 確実に行う。	湯本	通 年	② EC車の導入を推進する。	村井	通 年	② EC車の導入を推進する。	山口	通 年	② EC車の導入を推進する。	綱分	通 年
		③ 運行記録により、燃費などの確認をする。	湯本	通 年	③ 規定の整備点検を 確実に行う。	村井	通 年	③ 規定の整備点検を 確実に行う。	山口	通 年	③ 規定の整備点検を 確実に行う。	綱分	通 年
3	軽油 使用量の削減	① 省エネ運転励行（ 急な発進・加速の禁止 ）	福永	通 年	① 出戻りの防止（ 積荷の確認 ）	村井	通 年	① 出戻りの防止（ 積荷の確認 ）	山口	通 年	① 出戻りの防止（ 積荷の確認 ）	綱分	通 年
		② 規定の整備点検を 確実に行う。	福永	通 年	② 省エネ運転励行（ 急発進・加速の禁止 ）	村井	通 年	② 省エネ運転励行（ 急発進・加速の禁止 ）	山口	通 年	② 省エネ運転励行（ 急発進・加速の禁止 ）	綱分	通 年
		③ 運行記録により、燃費などの確認をする。	福永	通 年	③ 使用機器の整備点検を 確実に行う。	村井	通 年	③ 使用機器の整備点検を 確実に行う。	山口	通 年	③ 使用機器の整備点検を 確実に行う。	綱分	通 年
4	LPG 使用量の削減	① 給湯器を使用しない時は、種火を消す。	田中	通 年							① 給湯器を使用しない時は、種火を消す。	民谷	通 年
		② 給湯器の使用回数を 最小限に留める。	田中	通 年							② 給湯器の使用回数を 最小限に留める。	民谷	通 年

（2） 廃棄物 排出量の削減 と 建設資材のリサイクル率の向上

	活動 項目	本　　社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
		実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画
1	廃棄物 排出量の削減	① 事前打合を充実させ、不良品を防止する。	福永	通 年	① 事前打合を充実させ、不良品を防止する。	村井	通 年	① 事前打合を充実させ、不良品を防止する。	山口	通 年	① 事前打合を充実させ、不良品を防止する。	綱分	通 年
		② 資材の在庫購入は、最小限に留める。	福永	通 年	② 資材の在庫購入は、最小限に留める。	村井	通 年	② 資材の在庫購入は、最小限に留める。	山口	通 年	② 資材の在庫購入は、最小限に留める。	綱分	通 年
		③ 端材・残材の活用に努める。	福永	通 年	③ 端材・残材の活用に努める。	村井	通 年	③ 端材・残材の活用に努める。	山口	通 年	③ 端材・残材の活用に努める。	綱分	通 年
2	建設資材リサイクル率の向上	① 廃材の分別を 厳格に行う。	福永	通 年	① 廃材の分別を 厳格に行う。	村井	通 年	① 廃材の分別を 厳格に行う。	山口	通 年	① 廃材の分別を 厳格に行う。	綱分	通 年
		② 廃材のリサイクル処理を強化する。	福永	通 年	② 廃材のリサイクル処理を強化する。	村井	通 年	② 廃材のリサイクル処理を強化する。	山口	通 年	② 廃材のリサイクル処理を強化する。	綱分	通 年

（3） 総排水量の削減

	活動 項目	本　　社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
		実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画
1	水 使用量の削減	① 台所・洗面所の節水活動の推進	岡部	通 年	① 台所・洗面所の節水活動の推進	伊藤	通 年	① 台所・洗面所の節水活動の推進	山口	通 年	① 台所・洗面所の節水活動の推進	民谷	通 年
		② 夏季の散水や洗車水の節減	湯本	通 年									

（4） グリーン購入の推進

	活動 項目	本　　社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
		実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画
1	エコ用品の活用	① 適正な再生品の選定していく。	岡部	通 年	① 適正な再生品の選定していく。	伊藤	通 年	① 適正な再生品の選定していく。	山口	通 年	① 適正な再生品の選定していく。	民谷	通 年
2	省エネ車輌の導入	② 代替え車は、EC車にする。	湯本	通 年	② 代替え車は、EC車にする。	村井	通 年	② 代替え車は、EC車にする。	山口	通 年	② 代替え車は、EC車にする。	綱分	通 年

（5） 会社周辺の清掃等

	活動 項目	本　　社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
		実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画
1	会社周辺 並びに 事務所・工場・加工場 などの5S活動推進	① 会社周辺の清掃	全員	通 年	① 日々の10分間清掃を継続する。	全員	通 年	① 事務所内を定期的に清掃する。	全員	通 年	① 資機材・備品等の整理整頓	全員	通 年
		② 会社周辺の飛散ゴミや空き缶の回収	全員	通 年	② 加工場・資材置場の整理整頓	全員	通 年	② 加工場・資材置場の整理整頓	全員	通 年	② 加工場・資材置場の整理整頓	全員	通 年
		③ 会社周辺の除草	全員	通 年	③ 器具工具の定置管理の推進	全員	通 年	③ 器具工具の定置管理の推進	全員	通 年	③ 不良品の廃棄 及び 不足品の調達	全員	通 年

（6） 無事故無災害の達成

	活動 項目	本　　社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
		実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画
1	安全パトロールの実施	① 2回／日 の 工場内の所長 安全巡視	福永	通 年	① 2回／日 の 工場内の所長 安全巡視	村井	通 年	① 2回／日 の 工場内の所長 安全巡視	山口	通 年	① 2回／日 の 工場内の所長 安全巡視	綱分	通 年
		② 2回／月 の 工場内の課長 安全巡視	福永	毎月	② 2回／月 の 工場内の課長 安全巡視	村井	毎月	② 2回／月 の 工場内の課長 安全巡視	山口	毎月	② 2回／月 の 工場内の課長 安全巡視	綱分	毎月
		③ 1回／月 の 工場内の社長 安全巡視	社長	毎月	③ 1回／月 の 工場内の社長 安全巡視	村井	毎月	③ 1回／月 の 工場内の社長 安全巡視	山口	毎月	③ 1回／月 の 工場内の社長 安全巡視	綱分	毎月
		④ 2回／年 統括安全パトロールの実施	社長	7･10月	④ 2回／年 統括安全パトロールの実施	村井	7･10月	④ 2回／年 統括安全パトロールの実施	山口	7･10月	④ 2回／年 統括安全パトロールの実施	綱分	7･10月
2	始業前 の KY 実施	① 朝礼時に安全面での注意事項を 周知	福永	通 年	① 朝礼時に安全面での注意事項を 周知	藤本	通 年	① 朝礼時に安全面での注意事項を 周知	山口	通 年	① 朝礼時に安全面での注意事項を 周知	徳富	通 年
		② 作業前にKYシートの記入を 実践する	福永	通 年	② 作業前にKYシートの記入を 実践する	藤本	通 年	② 作業前にKYシートの記入を 実践する	山口	通 年	② 作業前にKYシートの記入を 実践する	徳富	通 年
		③ 協力会社の教育と指導	福永	通 年	③ 協力会社の教育と指導	藤本	通 年	③ 協力会社の教育と指導	山口	通 年	③ 協力会社の教育と指導	徳富	通 年
3	安全衛生活動の 周知と推進	① 1回／月 中央安全衛生委員会を 開催	福永	毎月	① 1回／月 中央安全衛生委員会を 開催	村井	毎月	① 1回／月 中央安全衛生委員会を 開催	山口	毎月	① 1回／月 中央安全衛生委員会を 開催	綱分	毎月
		② 1回／月 事業所毎に 安衛協議会を 開催	福永	毎月	② 1回／月 事業所毎に 安衛協議会を 開催	村井	毎月	② 1回／月 事業所毎に 安衛協議会を 開催	山口	毎月	② 1回／月 事業所毎に 安衛協議会を 開催	綱分	毎月
		③ 全社合同 安全大会の開催	福永	7月	③ 全社合同 安全大会の開催	村井	7月	③ 全社合同 安全大会の開催	山口	7月	③ 全社合同 安全大会の開催	綱分	7月
		④ 全社合同 労働衛生大会の開催	福永	10月	④ 全社合同 労働衛生大会の開催	村井	10月	④ 全社合同 労働衛生大会の開催	山口	10月	④ 全社合同 労働衛生大会の開催	綱分	10月
		⑤ インフルエンザ予防接種の推進	福永	11月	⑤ インフルエンザ予防接種の推進	村井	11月	⑤ インフルエンザ予防接種の推進	山口	11月	⑤ インフルエンザ予防接種の推進	綱分	11月

（7） 若手社員の採用と育成

	活動 項目	本　　社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
		実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画
1	若手社員の採用	① 縁故採用（親族や取引先などの紹介）	福永	通 年	① 縁故採用（親族や取引先などの紹介）	村井	通 年	① 縁故採用（親族や取引先などの紹介）	山口	通 年	① 縁故採用（親族や取引先などの紹介）	綱分	通 年
		② 派遣社員の正規採用	福永	通 年	② 派遣社員の正規採用	村井	通 年	② 派遣社員の正規採用	山口	通 年	② 派遣社員の正規採用	綱分	通 年
		③ 福岡県若者支援センター会社説明会参加	湯本	通 年									
		④ ポリテクセンター研修生への求人（訪問）	湯本	通 年									
		⑤ 高等技術専門学校生への求人（訪問）	湯本	通 年									
		⑥ ハローワーク への求人	湯本	通 年									
		⑦ 自衛隊退官者の会社説明会参加	湯本	通 年									
		⑧ 福岡県若者支援センター会社説明会参加	湯本	通 年									
2	新入社員の育成	① 雇入れ時の安全教育	橋谷	通 年	① 新規入構者教育	村井	通 年	① 新規入構者教育	山口	通 年	① 新規入構者教育	綱分	通 年
		② 新入社員教育	湯本	通 年	② 日常のOJT教育	村井	通 年	② 日常のOJT教育	山口	通 年	② 日常のOJT教育	綱分	通 年
		③ 日常のOJT教育	福永	通 年	③ 安全衛生教育と指導	村井	通 年	③ 安全衛生教育と指導	山口	通 年	③ 安全衛生教育と指導	綱分	通 年
		④ 安全衛生教育と指導	福永	通 年	④ 作業指示書とKY教育	村井	通 年	④ 作業指示書とKY教育	山口	通 年	④ 作業指示書とKY教育	綱分	通 年
		⑤ 作業指示書とKY教育	福永	通 年	⑤ 作業手順に関する教育	村井	通 年	⑤ 作業手順に関する教育	山口	通 年	⑤ 作業手順に関する教育	綱分	通 年
		⑥ 作業手順に関する教育	福永	通 年									

6.　環境経営目標の実績

2023年　5月31日

2022年度　環境経営目標の実績（12／12）

2021年度（基準年度）実績を 踏まえ、2022年度の目標を 設定しております。

環境目標			単位	2021年度 実績 （基準 年度）	2022年 期間目標 （年間目標 4月～ 3月）	2022年 期間実績 （目標対比 4月～ 3月）	基準年度 対比率	期間目標 対比評価	コメント
1	二酸化炭素　排出量		kg－CO2	21,440 kg－CO2 （ 100.0％）	21,272 kg－CO2 （ 100.0％）	26,337 kg－CO2 （ 123.8％）	122.8%	×	売上が大幅に増加しため、化石燃料の使用量が、大きく増えた。
1－1	電　気　使用量		KWh	22,916 KWh （ 100.0％）	22,500 KWh （ 100.0％）	24,407 KWh （ 108.5％）	106.5%	×	内作が増加したため、工場の使用電力も増加した。
1－2	ガソリン　使用量		ℓ	7,606 ℓ （ 100.0％）	7,550 ℓ （ 100.0％）	9,434 ℓ （ 125.0％）	124.0%	×	車両の燃料使用量が、増加した。
1－3	軽　油　使用量		ℓ	1,468 ℓ （ 100.0％）	1,450 ℓ （ 100.0％）	1,722 ℓ （ 118.8％）	117.3%	×	大型車や重機等の使用が、増えた。
1－4	ＬＰＧ　使用量		kg	2.20 kg （ 100.0％）	5.00 kg （ 100.0％）	2.40 kg （ 48.0％）	109.1%	○	
2－1	廃棄物　排出量		t	69.81 t （ 100.0％）	68.00 t （ 100.0％）	63.28 t （ 93.1％）	90.6%	○	材料を無駄なく使用することができた。
2－2	建設副資材の リサイクル率		リサイクル率 （循環資源 t）	'25.5％ （ 17.83 t）	27.1％ （ 18.40 t）	67.5％ （ 42.74 t）	264.7%	○	
3	総排水量（給水量）		㎥	72.0 ㎥ （ 100.0％）	71.00 ㎥ （ 100.0％）	69.4 ㎥ （ 97.7％）	96.4%	○	
4	グリーン購入の推進	事務用品	再生用品の活用品目 （達成率）	0 件 （ 0.0％）	1 件 （ 100.0％）	0 件 （ 0.0％）	0.0%	×	
		エコ車対応	省エネ車／車両総数（％） 全社車両台数 16台 （普及率）	16 台／16 台 （ 100.0％）	17 台／17 台 （ 100.0％）	17 台／17 台 （ 100.0％）	100.0%	○	更なるエコ運転を推進している。
5	会社周辺の清掃 （※100% 以上を 達成目標とする）		実施 回数 （達成率）	37 回／年 （ 100.0％）	38 回／年 （ 100.0％）	38 回／年 （ 100.0％）	102.7%	○	
6	無事故 無災害　達成 （※各所 100%を 達成目標とする）		事故災害 件数 （達成率）	0 件 （ 100.0％）	0 件 （ 100.0％）	0 件 （ 100.0％）	100.0%	○	無事故無災害が、継続できている。
7	若手社員の採用と育成		若手採用　人数	―	1 人／年 （ 100.0％）	1 人／年 （ 100.0％）	―	○	
			教育研修　回数	―	6 回／年 （ 100.0％）	6 回／年 （ 100.0％）	―	○	計画的な教育活動が出来ている。

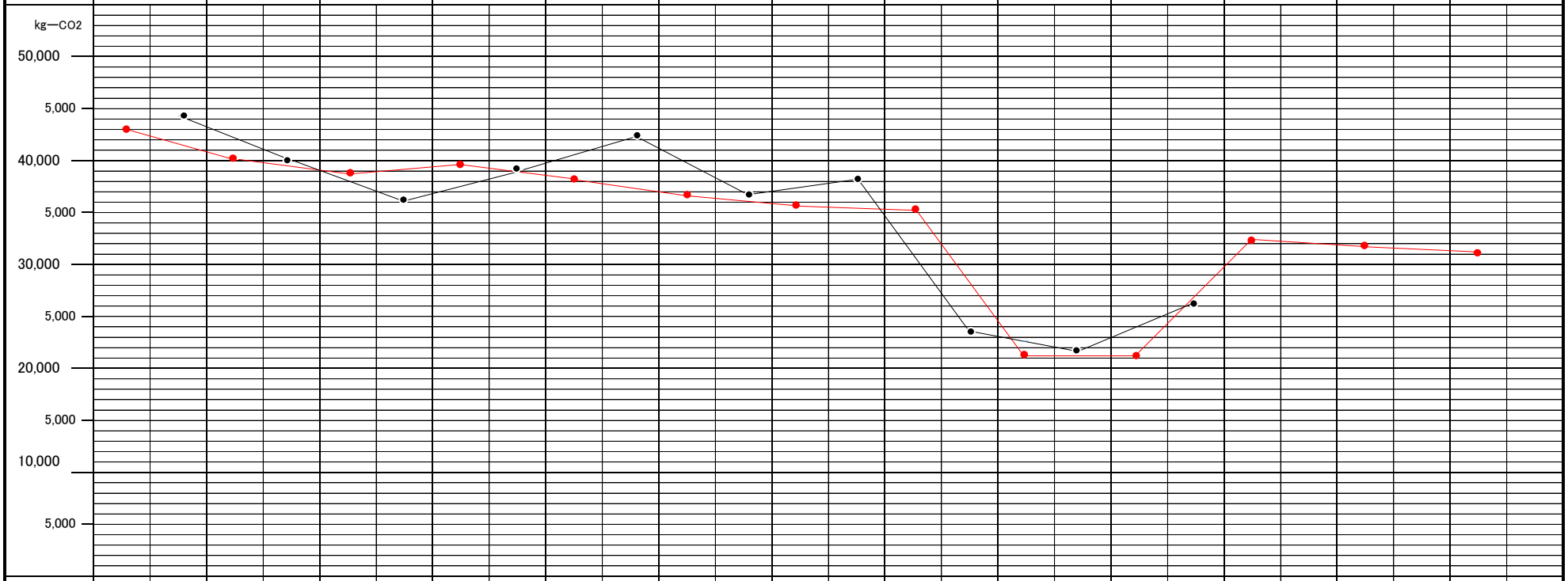
備　考
1：電気（1－1）・水（3）・周辺の清掃（5）は 本社のみ、LPG（1－4）は 本社と黒崎の合計で 集計する。又、購入電力の二酸化炭素排出係数は、2020年度 ㈱ ウエスト電力の 0.00kg-CO2/KWh を使用し、2021年度の目標 及び 実績を 計算している。
2：循環資源のリサイクル率は、年度毎の 循環資源／総排出量で 計算する。
3：化学物質の使用量は、極微量のため環境目標の策定は 行っていない。

2023年 11月 30日

永和工業 株式会社　エコアクション21

年 次 CO 2 排 出 量 推 移 表

（ 単位　kg – CO2 ）



対 象 項 目	目 標	実 績	目 標	実 績	目 標	実 績	目 標	実 績	目 標	実 績	目 標	実 績	目 標	実 績	目 標	実 績	目 標	実 績	目 標	実 績	目 標	実 績	目 標	実 績	目 標	実 績
電 力 使用量 KWh	30,500	31,968	30,000	30,144	29,500	27,799	26,400	26,355	25,200	29,818	24,000	23,951	23,500	26,371	23,500	28,049	23,000	22,916	22,500	24,407	22,100		22,100		22,000	
G S 使用量 ℓ	8,300	9,732	8,150	9,726	7,850	8,925	8,400	8,288	8,160	8,497	7,920	7,982	7,800	7,767	7,600	8,171	7,550	7,606	7,550	9,434	7,400		7,400		7,350	
軽 油 使用量 ℓ	3,400	3,449	3,200	2,237	3,350	1,931	1,800	1,614	1,600	1,975	1,580	1,496	1,450	1,863	1,450	1,868	1,400	1,468	1,450	1,722	1,350		1,350		1,300	
LPG 使用量 kg	110.00	101.00	100.00	58.00	95.00	68.00	54.00	52.00	50.00	12.80	48.00	46.00	43.00	22.00	40.00	16.20	38.00	2.20	5.00	2.40	5.00		3.00		2.80	
CO2 排出量 kg—CO2	43,000	44,161	40,000	39,931	38,566	36,417	39,805	39,025	38,011	42,362	36,694	36,584	35,767	38,356	35,294	23,825	21,242	21,440	21,272	26,337	32,545		31,752		31,463	
CO2 排出 係数	0. 375kg—CO2/Kwh		0. 375kg—CO2/Kwh		0. 375kg—CO2/Kwh		0. 584kg—CO2/Kwh		0. 584kg—CO2/Kwh		0. 584kg—CO2/Kwh		0. 584kg—CO2/Kwh		0. 584kg—CO2/Kwh		0. 000kg—CO2/Kwh		0. 000kg—CO2/Kwh		0. 501kg—CO2/Kwh		0. 501kg—CO2/Kwh		0. 501kg—CO2/Kwh	
電 力 供 給 会 社	九州電力 ㈱		九州電力 ㈱		九州電力 ㈱		九州電力 ㈱		九州電力 ㈱		九州電力 ㈱		九州電力 ㈱		九州電力 ㈱		㈱ ウエスト電力		㈱ ウエスト電力		日本テクノ ㈱		日本テクノ ㈱		日本テクノ ㈱	
売 上 高（百万円）	507		579		692		625		796		669		471		597		484		715							

7.　環境経営目標 及び 環境経営計画の実績・取組結果とその評価（ 実績には 二酸化炭素排出量を 含む ）
並びに 次年度の環境経営目標 及び 環境経営計画

2023年　5月31日

環境経営目標 及び 環境経営計画の実績・取組結果とその評価 並びに 次年度の環境経営計画

（1） 二酸化炭素　総排出量削減

	活動　項目	本　　社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒　崎　事業所	
		評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み
1	電気 使用量の削減 （1）事務所	エアコンは、適温が保持されている。	節電活動を 継続する。	エアコンは、適温が保持されている。	節電活動を 継続する。	エアコンは、適温が保持されている。	節電活動を 継続する。	エアコンは、適温が保持されている。	節電活動を 継続する。
		エアコンなどの切り忘れは、ない。	向上のLED化を推進する。	エアコンなどの切り忘れは、ない。		エアコンなどの切り忘れは、ない。		エアコンなどの切り忘れは、ない。	
		昼休の室内は、原則、消灯している。		昼休の室内は、原則、消灯している。		昼休の室内は、原則、消灯している。		昼休の室内は、原則、消灯している。	
		残業は、極力、控えている。							
		事務所の電灯を LED化した。							
	（2）工場・加工場	未使用の電動工具などは、元電源を	節電活動を 継続する。	未使用の電動工具などは、元電源を	節電活動を 継続する。	未使用の電動工具などは、元電源を	節電活動を 継続する。	未使用の電動工具などは、元電源を	節電活動を 継続する。
		切っていいる。	新規入構者 及び 協力会社にも	切っていいる。	新規入構者 及び 協力会社にも	切っていいる。	新規入構者 及び 協力会社にも	切っていいる。	新規入構者 及び 協力会社にも
		昼休の場内は、原則、消灯している。	節電を周知する。	昼休の場内は、原則、消灯している。	節電を周知する。	昼休の場内は、原則、消灯している。	節電を周知する。	昼休の場内は、原則、消灯している。	節電を周知する。
		ピーク電源を考えて、設備を稼働さ		設備・工具類の点検整備は、適正に		設備・工具類の点検整備は、適正に		設備・工具類の点検整備は、適正に	
		せている。		行っている。		行っている。		行っている。	
		工場・構内のLED化を 推進した。							
2	ガソリン使用量の削減	みなで、省エネ運転を行っている。	エコ運転や整備点検など継続する。	出発前の積荷点検を行っている。	エコ運転や整備点検など継続する。	出発前の積荷点検を行っている。	エコ運転や整備点検など継続する。	出発前の積荷点検を行っている。	エコ運転や整備点検など継続する。
		整備点検を 確実に行っている。	協力会社にも周知徹底する。	整備点検を 確実に行っている。	協力会社にも周知徹底する。	整備点検を 確実に行っている。	協力会社にも周知徹底する。	整備点検を 確実に行っている。	協力会社にも周知徹底する。
3	軽油 使用量の削減			出発前の積荷点検を行っている。	エコ車のグレードアップを図る。	出発前の積荷点検を行っている。	エコ車のグレードアップを図る。	出発前の積荷点検を行っている。	エコ車のグレードアップを図る。
				整備点検を確実に行っている。	発電機のエコ対応を推進する。	整備点検を確実に行っている。	発電機のエコ対応を推進する。	整備点検を確実に行っている。	発電機のエコ対応を推進する。
				発電機は、エコ機を使用している。	出戻りのないよう事前準備する。	発電機は、エコ機を使用している。	出戻りのないよう事前準備する。	発電機は、エコ機を使用している。	出戻りのないよう事前準備する。
4	LPG 使用量の削減	給湯器は、種火を切っている。	こまめな節約を 継続する。						

（2） 廃棄物 排出量の削減 と 建設資材のリサイクル率の向上

	活動　項目	本　　社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒　崎　事業所	
		評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み
1	廃棄物 排出量の削減	打合せをシッカリ行い、誤作がない。	密な打合せで、不良品を出さない。	打合せをシッカリ行い、誤作がない。	密な打合せで、不良品を出さない。	打合せをシッカリ行い、誤作がない。	密な打合せで、不良品を出さない。	打合せをシッカリ行い、誤作がない。	密な打合せで、不良品を出さない。
		不用な在庫買いは、ない。	廃棄物の分別管理を継続する。	大きな在庫買いは、ない。	廃棄物の分別管理を継続する。	大きな在庫買いは、ない。	廃棄物の分別管理を継続する。	大きな在庫買いは、ない。	廃棄物の分別管理を継続する。
		残材・端材の活用に努めている。		残材・端材の活用に努めている。		残材・端材の活用に努めている。		残材・端材の活用に努めている。	
2	建設資材リサイクル率の向上	廃棄前の分別や確認を行っている。	廃棄物の分別管理を継続する。	廃棄前の分別や確認を行っている。	廃棄物の分別管理を継続する。	廃棄前の分別や確認を行っている。	廃棄物の分別管理を継続する。	廃棄前の分別や確認を行っている。	廃棄物の分別管理を継続する。

（3） 総排水量の削減

	活動　項目	本　　社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒　崎　事業所	
		評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み
1	水 使用量の削減	みなが、節水を心掛けている。	みなで、節水の取組みを継続する。	みなが、節水を心掛けている。	みなで、節水の取組みを継続する。	みなが、節水を心掛けている。	みなで、節水の取組みを継続する。	みなが、節水を心掛けている。	みなで、節水の取組みを継続する。
		水を流しっ放したまま使用しない。	放水による洗車は、しない。	水を流しっ放したまま使用しない。	放水による洗車は、しない。	水を流しっ放したまま使用しない。	放水による洗車は、しない。	水を流しっ放したまま使用しない。	放水による洗車は、しない。
			樹木の散水は、極力、雨水を使う。						

（4） グリーン購入の推進

	活動　項目	本　　社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒　崎　事業所	
		評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み
1	エコ用品の活用	適正な製品が、見つかってない。	適正なエコ品の検討を続ける。	適正な製品が、見つかってない。	適正なエコ品の検討を続ける。	適正な製品が、見つかってない。	適正なエコ品の検討を続ける。	適正な製品が、見つかってない。	適正なエコ品の検討を続ける。
2	省エネ車輌の導入	車両のエコ化が、推進されている。	代替え車両の、更なるエコ化を図る。	車両のエコ化が、推進されている。	代替え車両の、更なるエコ化を図る。	車両のエコ化が、推進されている。	代替え車両の、更なるエコ化を図る。	車両のエコ化が、推進されている。	代替え車両の、更なるエコ化を図る。

（5） 会社周辺の清掃等

	活動　項目	本　　社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒　崎　事業所	
		評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み
1	会社周辺 並びに 事務所・工場・加工場 などの5S活動推進	毎週の活動を シッカリ行っている。 除草など適切に行われ、会社周辺 は、綺麗になっている。	5S活動を 継続的に行う。 責任者は、実施状況を掲示する。	日々の活動を シッカリ行っている。 構内の事務所・加工場の5S点検で お客様からも評価された。	5S活動を 継続的に行う。	毎週の活動を シッカリ行っている。 構内の事務所・加工場の5S点検で お客様からも評価された。	5S活動を 継続的に行う。	月々の活動を シッカリ行っている。 事務所や加工場は、いつも綺麗に 整理整頓されている。	5S活動を 継続的に行う。

（6） 無事故無災害の達成

	活動　項目	本　　社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒　崎　事業所	
		評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み
1	安全パトロールの実施	定時の安全巡視を 行っている。	パトロール活動を 継続的に行う。 協力会社も、合同で行う。	定時の安全巡視を 行っている。	パトロール活動を 継続的に行う。 協力会社も、合同で行う。	定時の安全巡視を 行っている。	パトロール活動を 継続的に行う。 協力会社も、合同で行う。	定時の安全巡視を 行っている。	パトロール活動を 継続的に行う。 協力会社も、合同で行う。
2	始業前のKY実施	協力会社も交えて、日々のKY活動を 行なっている。	日々の活動を 継続的に行う。 作業指示書の充実と周知を図る。	協力会社も交えて、日々のKY活動を 行なっている。	日々の活動を 継続的に行う。 作業指示書の充実と周知を図る。	協力会社も交えて、日々のKY活動を 行なっている。	日々の活動を 継続的に行う。 作業指示書の充実と周知を図る。	協力会社も交えて、日々のKY活動を 行なっている。	日々の活動を 継続的に行う。 作業指示書の充実と周知を図る。
3	安全衛生活動の 周知と推進	安全衛生委員会の決定事項は、 社員に周知している。(部会開催) インフル予防接種など推進している。 コロナ対策で、手洗・消毒・マスク 着用や検温出社など 実施している。	安全衛生活動を 継続的に行う。 協力会社にも積極的参加を促す。	安全衛生委員会の決定事項は、 社員に周知している。(部会開催) インフル予防接種など推進している。 コロナ対策で、手洗・消毒・マスク 着用や検温出社など 実施している。	安全衛生活動を 継続的に行う。 協力会社にも積極的参加を促す。	安全衛生委員会の決定事項は、 社員に周知している。(部会開催) インフル予防接種など推進している。 コロナ対策で、手洗・消毒・マスク 着用や検温出社など 実施している。	安全衛生活動を 継続的に行う。 協力会社にも積極的参加を促す。	安全衛生委員会の決定事項は、 社員に周知している。(部会開催) インフル予防接種など推進している。 コロナ対策で、手洗・消毒・マスク 着用や検温出社など 実施している。	安全衛生活動を 継続的に行う。 協力会社にも積極的参加を促す。

（7） 若手社員の採用と育成

	活動　項目	本　　社		小倉第一事業所		小倉第二事業所		黒　崎　事業所	
		評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み	評　　価	今後の取り組み
1	若手社員の採用	社員候補の派遣社員を採用する	会社説明会への積極的参加	若手社員の採用が、出来てない。	縁故や関係先などの紹介採用を	若手社員を縁故採用することが	縁故や関係先などの紹介採用を	若手社員の採用が、出来てない。	縁故や関係先などの紹介採用を
		ことができた。			続ける。	できた。	続ける。		続ける。
		自衛隊の会社説明会に参加した。	ネット求人・採用の実施（ 人材紹介 ）		ネット求人・採用の実施（ 人材紹介 ）	関係業者との情報交換ができた。	ネット求人・採用の実施（ 人材紹介 ）		ネット求人・採用の実施（ 人材紹介 ）
		ポリテクセンターに求人依頼した。							
		ハローワークに新卒求人する。							
		（ 高校新卒者：学校訪問する ）							
2	新入社員の育成	雇入れ時の教育を実施する。	新入社員ごとに定められた教育を	新規入構者教育を実施する。	社員レベルに合わせ技能実習を	新規入構者教育を実施する。	社員レベルに合わせ技能実習を	新規入構者教育を実施する。	社員レベルに合わせ技能実習を
		新入社員教育等を実施する。	実施する。	OJT教育を実施する。	受講させる。	OJT教育を実施する。	受講させる。	OJT教育を実施する。	受講させる。
					希望資格の受講に向けた教育を	業務に必要な特別教育・技能講習	希望資格の受講に向けた教育を		希望資格の受講に向けた教育を
					行う。	などの安全教育を外部教育機関で	行う。		行う。
						受講させる。			

エコアクション21 ： 周辺環境の美化

安全衛生活動・インターンシップ・5S活動など

［ 実 施 状 況 ］

1． 朝礼 安全・作業指示

2． 作業前のラジオ体操

2． 2023年度 安全大会

4.　溶接機器　点検

5.　工事課　安全部会

6.　工場内の清掃

7.　高校生　インターンシップ

8.　5S活動：玄関廻りの清掃

9.　5S活動：構内の除草

2023 4月 1日

2023年度 及び 中長期 環境経営目標

2022年度（基準年度）の実績を 踏まえ、各年度の目標を 設定しております。

環境目標			単位	2022年度 実績 （基準 年度）	2023年度 目標 （基準年度実績 対比率）	2024年度 目標 （基準年度実績 対比率）	2025年度 目標 （基準年度実績 対比率）	2026年度 目標 （基準年度実績 対比率）
1	二酸化炭素 排出量		kg－CO2	26,337 kg－CO2 （ 100.0 % ）	32,545 kg－CO2 （ 123.6 % ）	31,752 kg－CO2 （ 120.6 % ）	31,436 kg－CO2 （ 119.4 % ）	31,218 kg－CO2 （ 118.5 % ）
1－1	電 気 使用量		KWh	24,407 KWh （ 100.0 % ）	22,500 KWh （ 92.2 % ）	22,100 KWh （ 90.5 % ）	22,000 KWh （ 90.1 % ）	21,900 KWh （ 89.7 % ）
1－2	ガソリン 使用量		ℓ	9,434 ℓ （ 100.0 % ）	7,550 ℓ （ 80.0 % ）	7,400 ℓ （ 78.4 % ）	7,350 ℓ （ 77.9 % ）	7,300 ℓ （ 77.4 % ）
1－3	軽 油 使用量		ℓ	1,722 ℓ （ 100.0 % ）	1,450 ℓ （ 84.2 % ）	1,350 ℓ （ 78.4 % ）	1,300 ℓ （ 75.5 % ）	1,280 ℓ （ 74.3 % ）
1－4	ＬＰＧ 使用量		kg	2.40 kg （ 100.0 % ）	5.00 kg （ 208.3 % ）	3.00 kg （ 125.0 % ）	2.80 kg （ 116.7 % ）	2.60 kg （ 108.3 % ）
2－1	廃棄物 排出量		t	63.28 t （ 100.0 % ）	58.00 t （ 98.1 % ）	55.00 t （ 93.0 % ）	54.00 t （ 91.3 % ）	53.00 t （ 89.6 % ）
2－2	建設副資材の リサイクル率		リサイクル率 （循環資源 t）	67.5 % （ 42.74 t）	69.0 % （ 40.00 t）	70.0 % （ 38.50 t）	70.4 % （ 38.00 t）	70.8 % （ 37.50 t）
3	総排水量（給水量）		㎥	69.4 ㎥ （ 100.0 % ）	69.0 ㎥ （ 99.4 % ）	68.5 ㎥ （ 98.7 % ）	68.0 ㎥ （ 98.0 % ）	67.5 ㎥ （ 97.3 % ）
4	グリーン購入の推進	事務 用品	再生用品の活用品目 達 成 率	0 件 （ 0.0 % ）	1 件 （ 100.0 % ）	1 件 （ 100.0 % ）	1 件 （ 100.0 % ）	1 件 （ 100.0 % ）
		再エコ車対応 （全17台）	省エネ車／車両総数（%） 普 及 率	17 台 ／ 17台	17 台 ／ 17台 （ 100.0 % ）	17 台 ／ 17台 （ 100.0 % ）	17 台 ／ 17台 （ 100.0 % ）	17 台 ／ 17台 （ 100.0 % ）
5	会社周辺の清掃 （※ 100% 以上を 達成目標とする）		実施 回数 （達 成 率）	38 回 ／ 年 （ 100.0 % ）	38 回 ／ 年 （ 100.0 % ）	40 回 ／ 年 （ 105.3 % ）	41 回 ／ 年 （ 107.9 % ）	42 回 ／ 年 （ 110.5 % ）
6	無事故 無災害 達成 （※ 各所 100%を 達成目標とする）		事故災害 件数 （達 成 率）	0 件 ／ 年 （ 100.0 % ）	0 件 ／ 年 （ 100.0 % ）	0 件 ／ 年 （ 100.0 % ）	0 件 ／ 年 （ 100.0 % ）	0 件 ／ 年 （ 100.0 % ）
7	若手社員の採用 と 育成		若手採用 人数	1 人 ／ 年 （ 100.0 % ）	1 人 ／ 年 （ 100.0 % ）	1 人 ／ 年 （ 100.0 % ）	1 人 ／ 年 （ 100.0 % ）	1 人 ／ 年 （ 100.0 % ）
			教育研修 回数	6 回 ／ 年 （ 100.0 % ）	6 回 ／ 年 （ 100.0 % ）	6 回 ／ 年 （ 100.0 % ）	6 回 ／ 年 （ 100.0 % ）	6 回 ／ 年 （ 100.0 % ）

備 考

1 ： 電気（1－1）・水（3）・周辺の清掃（5）は 本社のみ、LPG（1－4）は 本社と黒崎の合計で 集計する。又、購入電力の二酸化炭素排出係数は、2020年度 日本テクノ㈱の 0.501 kg－CO2/kwhを使用し、2023年度以降の目標 及び 実績を 計算している。

2 ： 循環資源のリサイクル率は、年度毎の 循環資源／総排出量で 計算する。

3 ： 化学物質の使用量は、極微量のため環境目標の策定は行っていない。

2023年 4月 1日

2023年度　環 境 経 営 計 画

2023年度　環境経営計画の項目

（1） 二酸化炭素　総排出量削減

	活動 項目	本　　社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
		実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画
1	電気 使用量の削減 （1） 事務所	① エアコンの室温調節（ 夏28度、冬22度 ）	岡部	通 年	① エアコンの室温調節（ 夏28度、冬22度 ）	伊藤	通 年	① エアコンの室温調節（ 夏28度、冬22度 ）	山口	通 年	① エアコンの室温調節（ 夏28度、冬22度 ）	民谷	通 年
		② 退社時には、エアコンを 忘れずに切る。	岡部	通 年	② 退社時には、エアコンを 忘れずに切る。	伊藤	通 年	② 退社時には、エアコンを 忘れずに切る。	山口	通 年	② 退社時には、エアコンを 忘れずに切る。	民谷	通 年
		③ 昼休みの事務所は、原則 消灯とする。	岡部	通 年	③ 昼休みの事務所は、原則 消灯とする。	伊藤	通 年	③ 昼休みの事務所は、原則 消灯とする。	山口	通 年	③ 昼休みの事務所は、原則 消灯とする。	民谷	通 年
		④ 個室などの照明は、管理者が 再点検	湯本	通 年									
		する。											
		⑤ 効率的な業務に徹し、残業は 控える。	湯本	通 年									
	（2） 工場・加工場	① 未使用時の電動工具などは、元電源を	福永	通 年	① 未使用時の電動工具などは、元電源を	藤本	通 年	① 未使用時の電動工具などは、元電源を	山口	通 年	① 未使用時の電動工具などは、元電源を	徳富	通 年
		切る。			切る。			切る。			切る。		
		② 昼休みの加工場は、原則 消灯とする。	福永	通 年	② 昼休みの加工場は、原則 消灯とする。	藤本	通 年	② 昼休みの加工場は、原則 消灯とする。	山口	通 年	② 昼休みの加工場は、原則 消灯とする。	徳富	通 年
		③ ピーク電力を考え、機器などを使用する。	福永	通 年	③ 電動工具の定期整備を 確実に行う。	藤本	通 年	③ 電動工具の定期整備を 確実に行う。	山口	通 年	③ 電動工具の定期整備を 確実に行う。	徳富	通 年
2	ガソリン 使用量の削減	① 省エネ運転励行（ 急な発進・加速の禁止 ）	湯本	通 年	① 出戻りの防止（ 積荷の確認 ）	村井	通 年	① 出戻りの防止（ 積荷の確認 ）	山口	通 年	① 出戻りの防止（ 積荷の確認 ）	徳富	通 年
		② 規定の整備点検を 確実に行う。	湯本	通 年	② EC車の導入を推進する。	村井	通 年	② EC車の導入を推進する。	山口	通 年	② EC車の導入を推進する。	徳富	通 年
		③ 運行記録により、燃費などの確認をする。	湯本	通 年	③ 規定の整備点検を 確実に行う。	村井	通 年	③ 規定の整備点検を 確実に行う。	山口	通 年	③ 規定の整備点検を 確実に行う。	徳富	通 年
3	軽油 使用量の削減	① 省エネ運転励行（ 急な発進・加速の禁止 ）	福永	通 年	① 出戻りの防止（ 積荷の確認 ）	村井	通 年	① 出戻りの防止（ 積荷の確認 ）	山口	通 年	① 出戻りの防止（ 積荷の確認 ）	徳富	通 年
		② 規定の整備点検を 確実に行う。	福永	通 年	② 省エネ運転励行（ 急発進・加速の禁止 ）	村井	通 年	② 省エネ運転励行（ 急発進・加速の禁止 ）	山口	通 年	② 省エネ運転励行（ 急発進・加速の禁止 ）	徳富	通 年
		③ 運行記録により、燃費などの確認をする。	福永	通 年	③ 使用機器の整備点検を 確実に行う。	村井	通 年	③ 使用機器の整備点検を 確実に行う。	山口	通 年	③ 使用機器の整備点検を 確実に行う。	徳富	通 年
4	LPG 使用量の削減	① 給湯器を使用しない時は、種火を消す。	田中	通 年							① 給湯器を使用しない時は、種火を消す。	民谷	通 年
		② 給湯器の使用回数を 最小限に留める。	田中	通 年							② 給湯器の使用回数を 最小限に留める。	民谷	通 年

（2） 廃棄物 排出量の削減 と 建設資材のリサイクル率の向上

	活動 項目	本　　社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
		実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画
1	廃棄物 排出量の削減	① 事前打合を充実させ、不良品を防止する。	福永	通 年	① 事前打合を充実させ、不良品を防止する。	村井	通 年	① 事前打合を充実させ、不良品を防止する。	山口	通 年	① 事前打合を充実させ、不良品を防止する。	徳富	通 年
		② 資材の在庫購入は、最小限に留める。	福永	通 年	② 資材の在庫購入は、最小限に留める。	村井	通 年	② 資材の在庫購入は、最小限に留める。	山口	通 年	② 資材の在庫購入は、最小限に留める。	徳富	通 年
		③ 端材・残材の活用に努める。	福永	通 年	③ 端材・残材の活用に努める。	村井	通 年	③ 端材・残材の活用に努める。	山口	通 年	③ 端材・残材の活用に努める。	徳富	通 年
2	建設資材リサイクル率の向上	① 廃材の分別を 厳格に行う。	福永	通 年	① 廃材の分別を 厳格に行う。	村井	通 年	① 廃材の分別を 厳格に行う。	山口	通 年	① 廃材の分別を 厳格に行う。	徳富	通 年
		② 廃材のリサイクル処理を強化する。	福永	通 年	② 廃材のリサイクル処理を強化する。	村井	通 年	② 廃材のリサイクル処理を強化する。	山口	通 年	② 廃材のリサイクル処理を強化する。	徳富	通 年

（3） 総排水量の削減

	活動 項目	本　　社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
		実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画
1	水 使用量の削減	① 台所・洗面所の節水活動の推進	田中	通 年	① 台所・洗面所の節水活動の推進	伊藤	通 年	① 台所・洗面所の節水活動の推進	山口	通 年	① 台所・洗面所の節水活動の推進	民谷	通 年
		② 夏季の散水や洗車水の節減	湯本	通 年									

（4） グリーン購入の推進

	活動 項目	本　　社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
		実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画
1	エコ用品の活用	① 適正な再生品の選定していく。	岡部	通 年	① 適正な再生品の選定していく。	伊藤	通 年	① 適正な再生品の選定していく。	山口	通 年	① 適正な再生品の選定していく。	民谷	通 年
2	省エネ車輌の導入	② 代替え車は、EC車にする。	湯本	通 年	② 代替え車は、EC車にする。	村井	通 年	② 代替え車は、EC車にする。	山口	通 年	② 代替え車は、EC車にする。	徳富	通 年

（5） 会社周辺の清掃等

	活動 項目	本　　社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
		実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画
1	会社周辺 並びに 事務所・工場・加工場 などの5S活動推進	① 会社周辺の清掃	全員	通 年	① 日々の10分間清掃を継続する。	全員	通 年	① 事務所内を定期的に清掃する。	全員	通 年	① 資機材・備品等の整理整頓	全員	通 年
		② 会社周辺の飛散ゴミや空き缶の回収	全員	通 年	② 加工場・資材置場の整理整頓	全員	通 年	② 加工場・資材置場の整理整頓	全員	通 年	② 加工場・資材置場の整理整頓	全員	通 年
		③ 会社周辺の除草	全員	通 年	③ 器具工具の定置管理の推進	全員	通 年	③ 器具工具の定置管理の推進	全員	通 年	③ 不良品の廃棄 及び 不足品の調達	全員	通 年

（6） 無事故無災害の達成

	活動 項目	本　　社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
		実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画
1	安全パトロールの実施	① 2回／日 の 工場内の所長 安全巡視	福永	通 年	① 2回／日 の 工場内の所長 安全巡視	村井	通 年	① 2回／日 の 工場内の所長 安全巡視	山口	通 年	① 2回／日 の 工場内の所長 安全巡視	徳富	通 年
		② 2回／月 の 工場内の課長 安全巡視	福永	毎月	② 2回／月 の 工場内の課長 安全巡視	村井	毎月	② 2回／月 の 工場内の課長 安全巡視	山口	毎月	② 2回／月 の 工場内の課長 安全巡視	徳富	毎月
		③ 1回／月 の 工場内の社長 安全巡視	社長	毎月	③ 1回／月 の 工場内の社長 安全巡視	村井	毎月	③ 1回／月 の 工場内の社長 安全巡視	山口	毎月	③ 1回／月 の 工場内の社長 安全巡視	徳富	毎月
		④ 2回／年 統括安全パトロールの実施	社長	7･10月	④ 2回／年 統括安全パトロールの実施	村井	7･10月	④ 2回／年 統括安全パトロールの実施	山口	7･10月	④ 2回／年 統括安全パトロールの実施	徳富	7･10月
2	始業前 の KY 実施	① 朝礼時に安全面での注意事項を 周知	福永	通 年	① 朝礼時に安全面での注意事項を 周知	藤本	通 年	① 朝礼時に安全面での注意事項を 周知	山口	通 年	① 朝礼時に安全面での注意事項を 周知	徳富	通 年
		② 作業前にKYシートの記入を 実践する	福永	通 年	② 作業前にKYシートの記入を 実践する	藤本	通 年	② 作業前にKYシートの記入を 実践する	山口	通 年	② 作業前にKYシートの記入を 実践する	徳富	通 年
		③ 協力会社の教育と指導	福永	通 年	③ 協力会社の教育と指導	藤本	通 年	③ 協力会社の教育と指導	山口	通 年	③ 協力会社の教育と指導	徳富	通 年
3	安全衛生活動の 周知と推進	① 1回／月 中央安全衛生委員会を 開催	福永	毎月	① 1回／月 中央安全衛生委員会を 開催	村井	毎月	① 1回／月 中央安全衛生委員会を 開催	山口	毎月	① 1回／月 中央安全衛生委員会を 開催	徳富	毎月
		② 1回／月 事業所毎に 安衛協議会を 開催	福永	毎月	② 1回／月 事業所毎に 安衛協議会を 開催	村井	毎月	② 1回／月 事業所毎に 安衛協議会を 開催	山口	毎月	② 1回／月 事業所毎に 安衛協議会を 開催	徳富	毎月
		③ 全社合同 安全大会の開催	福永	7月	③ 全社合同 安全大会の開催	村井	7月	③ 全社合同 安全大会の開催	山口	7月	③ 全社合同 安全大会の開催	徳富	7月
		④ 全社合同 労働衛生大会の開催	福永	10月	④ 全社合同 労働衛生大会の開催	村井	10月	④ 全社合同 労働衛生大会の開催	山口	10月	④ 全社合同 労働衛生大会の開催	徳富	10月
		⑤ インフルエンザ予防接種の推進	福永	11月	⑤ インフルエンザ予防接種の推進	村井	11月	⑤ インフルエンザ予防接種の推進	山口	11月	⑤ インフルエンザ予防接種の推進	徳富	11月

（7） 若手社員の採用と育成

	活動 項目	本　　社			小倉第一事業所			小倉第二事業所			黒 崎 事業所		
		実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画	実 施 活 動	責任者	活動計画
1	若手社員の採用	① 縁故採用（親族や取引先などの紹介）	福永	通 年	① 縁故採用（親族や取引先などの紹介）	村井	通 年	① 縁故採用（親族や取引先などの紹介）	山口	通 年	① 縁故採用（親族や取引先などの紹介）	徳富	通 年
		② 派遣社員の正規採用（紹介派遣）	福永	通 年	② 派遣社員の正規採用	村井	通 年	② 派遣社員の正規採用	山口	通 年	② 派遣社員の正規採用	徳富	通 年
		③ 福岡県若者支援センター会社説明会参加	湯本	通 年									
		④ ポリテクセンター研修生への求人（訪問）	湯本	通 年									
		⑤ 高等技術専門学校生への求人（訪問）	湯本	通 年									
		⑥ ハローワーク への求人	湯本	通 年									
		⑦ 自衛隊退官者の会社説明会参加	湯本	通 年									
2	新入社員の育成	① 雇入れ時の安全教育	橋谷	通 年	① 新規入構者教育	村井	通 年	① 新規入構者教育	山口	通 年	① 新規入構者教育	徳富	通 年
		② 新入社員教育	湯本	通 年	② 日常のOJT教育	村井	通 年	② 日常のOJT教育	山口	通 年	② 日常のOJT教育	徳富	通 年
		③ 日常のOJT教育	福永	通 年	③ 安全衛生教育と指導	村井	通 年	③ 安全衛生教育と指導	山口	通 年	③ 安全衛生教育と指導	徳富	通 年
		④ 安全衛生教育と指導	福永	通 年	④ 作業指示書とKY教育	村井	通 年	④ 作業指示書とKY教育	山口	通 年	④ 作業指示書とKY教育	徳富	通 年
		⑤ 作業指示書とKY教育	福永	通 年	⑤ 作業手順に関する教育	村井	通 年	⑤ 作業手順に関する教育	山口	通 年	⑤ 作業手順に関する教育	徳富	通 年
		⑥ 作業手順に関する教育	福永	通 年									

8.　環境関連法規等の遵守状況の確認 及び 結果の評価 並びに 違反・訴訟などの有無

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を 確認した結果、違反は ありませんでした。又、関係機関からの指摘や利害関係者からの訴訟も ありませんでした。

環境関連法規等の取りまとめ 及び 遵守状況のチェック結果

法 律 名 等	法令　条項	事業・作業	適用　条件	要求　事項	要　求　内　容	定期的確認 遵守条件 ・判定	主観 部門 確　認　日
＊廃棄物処理法	12条 1項 同令 6条、6条の5	収集運搬業務	自ら収集運搬を行う場合		o 運搬車両への表示 o 運搬内容の記載と常時携帯	○ ○	総 務 課 2023年 3月 31日
	12条 2項～9項 同令 6条の2の4・6 同規則 8条の2～4	産業廃棄物の 委託処理	廃プラ・木屑・紙屑・瓦礫 ゴム屑・コン殻・金属屑	委託先の確認	o 収集運搬 及び 処分業者の許可証の確認 o 中間処理施設等の現地確認	○ ○	総 務 課 2023年 3月 31日
	8条の4の2・3 8条の19～30 同令 27条 同規則 8条の26・27			委託契約の締結・保存	o 委託契約の内容確認 o 契約書類の保存（ 5年間 ）	○ ○	総 務 課 2023年 3月 31日
	30、30の2 同規則 8条の14～16 16の2、16の3 10条の8、21 法12条の3項の6 規則 8条の27			マニュフェスト伝票の交付 回収・照合 及び 保管	o 適合マニュフェストの使用 o マニュフェストの回収日の管理（ A票で照合チェック ） o マニュフェスト・ 委託契約書の5年間 保存 o 未回収戻票の報告 o 管理票交付等の状況報告	○ ○ ○ ○ ○	総 務 課 2023年 3月 31日
	12条 2項 同規則 8条	産業廃棄物の処理	現場保管・仮置き場	適正な保管・管理	o 野外焼却の禁止 o 積上・雨・風・悪臭に対する養生、保管場所掲示板の設置	○ ○	総 務 課 2023年 3月 31日
＊フロン排出抑制法 （ 改正フロン法 ）	法　第　5条 法　第16条 経済産業省/環境省 告示 ： 第13号		平成27年4月1日　施行 業務用エアコン、冷凍冷蔵 機器の管理者（使用者）	フロンガス管理の適正化 簡易点検を 3ケ月に1回 以上実施	o 異常音の確認 o 外観損傷・摩耗・腐食 及び 錆、その他の劣化 o 油漏れの確認 o 熱交換器への霜付着の確認	○ ○ ○ ○	総 務 課 2023年 3月 31日

９.　代表者による全体評価 と 見直しの結果

２０２２年度は、TOTO構内で多くの工事を 受注した為、前年比 4割以上の大幅な売上増加となりました。年間の活動計画に基づき、化石燃料の節約など今まで以上の活動を行ってきましたが、工場設備の稼働増に伴う、電力の使用や製品運搬 又、多くの工事用機器の使用などによって、CO2の排出量は、目標数値を大きく上廻ってしまいました。建設業は、年毎に売上の変動が激しく、数値目標の設定や達成が難しい業種ですが、社内で 取り組むエコアクション２１は、日常業務の中に活動が、シッカリと組み込まれ、作業効率の向上やコスト軽減の面では、数値以上の効果が 出ていたと思います。又、現場パトロールや安全教育などの充実により、今期も無事故無災害が継続されたことは、大きな成果でした。

現在、国内経済は、急激な円安やエネルギー価格の高騰が 進み、厳しい状況が 続いていますが、この「 ピンチ 」を 大きな「 チャンス 」と 捉え、みんなの「 創意 と 工夫 」で、社会環境や経営環境などの改善に継続して取り組んで行くことが大切です。

新型コロナウィルスも感染拡大が 治まりつつある中、来年度からは、「 働き方改革 」が 始まってきます。今後は、職場の環境づくりや衛生健康面などにも目を向け、社員が 明るく安心して働ける職場づくりを 目指して、頑張って行きましょう。

以　　上